

上越市名立大町のブナ

平 慎三

ブナは、新潟県では低地から山岳の中～上部までの垂直分布で極めて広い範囲に生育する(姫川原 1981)。そして、本県の大部分を占める冷温帯において気候的極相林を形成し、植生分布の上で最も代表的でかつ重要な樹種の一つである。

その垂直分布では、特に暖温帯付近の低地での分布が注目されてきており、今までの報告では海拔の最低は20mとなっている(石沢 1982、瀬沼 1995)。

このたび、2010年11月17日に、上越市名立区名立大町の江野神社の社叢において、ブナの単木の生育を確認した。そこは、名立川左岸にあり、海拔が10mで、日本海岸からの距離は約300mである。これは、今までの記録としては、県内のブナ分布地として最低海拔でしかも海岸に最も近接した場所にあるものである。

そのブナは、胸高幹周が141cm(胸高直径45cm)で、樹高は12m(目測)である。生育地点の斜面方位はN40°E、傾斜角度は35°で、冬季北西季節風の風衝を直接受けない立地にあり、周辺の植生は群落高が20m近くに達するケヤキ・タブノキ・ヤブツバキ林である。ブナの低地の限界分布を示す個体として貴重であるので、その保存に留意する必要がある。

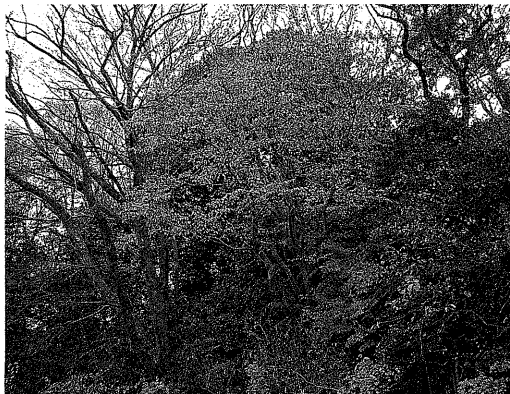


写真1 ブナの単木
(中央の葉のある木)



写真2 ブナの幹の上方

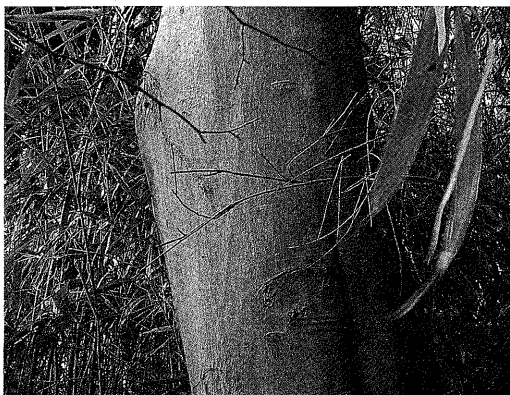


写真3 ブナの幹



写真4 ブナの落葉

参考文献

- 石沢 進 1982 新潟県植物分布図集 第3集:373. 植物同好じねんじょ会
 瀬沼賢一 1995 新潟県における照葉樹林帯とブナ帯の境界(第2報) 新潟県植物
 分布図集 第16集:106-110. 植物同好じねんじょ会
 新潟県 1987 ブナ自然林保全対策緊急調査報告書
 姫川原宗明 1981 新潟県植物分布図集 第2集:55-62. 植物同好じねんじょ会